

## 海外における日本酒の市場調査

次世代酒米コンソーシアムでは、日本酒の輸出を促進するため、香港、ロンドン、パリで日本酒の市場調査を実施した。香港では精米歩合50%以上の大吟醸酒が、ロンドン、パリでは精米歩合70%程度の普通酒、純米酒が好まれた。海外のスーパーマーケットでの販売価格は国内の約3倍と高価であった。

### 内容

酒米新品種を用いた、海外の嗜好に<sup>し</sup>応じた日本酒製品の開発と輸出促進を行うため、香港及び欧州において、日本酒の市場調査を実施した。香港ではスーパーマーケット（以下スーパー）4か所、レストラン7か所、欧州ではロンドンで3か所、パリで2か所のスーパーで販売されている日本酒の種類と価格について調査を行った。

香港ではスーパー、レストランともに調査対象酒282種類のうち、純米大吟醸酒が51%（144種類）、大吟醸酒が18%（50種類）と大吟醸酒の取扱が圧倒的に多かった（図）。

欧州では調査対象酒269種類のうち、普通酒が29.4%（79種類）、純米酒が26.4%（71種類）と割合が高かった。

720mL当たりの平均販売価格は香港のスーパー

では10,310円、レストランでは18,492円であった。ロンドンのスーパーでは10,307円、パリでは5,608円となり、日本国内の販売価格の約3倍程度でかなり高かった。

市場調査で得られた情報は、コンソーシアムの関係酒造メーカーに提供し、輸出向け製品の開発に利用した。

### 今後の方針

今後は香港、ロンドン、パリで市場調査と同時に行った試験醸造製品の嗜好調査と酒成分の分析結果を解析し、海外で求められている日本酒の品質、嗜好性を明らかにし、輸出用日本酒のコンセプトを作成する。

杉本 琢真（農産園芸部 酒米試験地）

（問い合わせ先 電話：0795-42-1036）

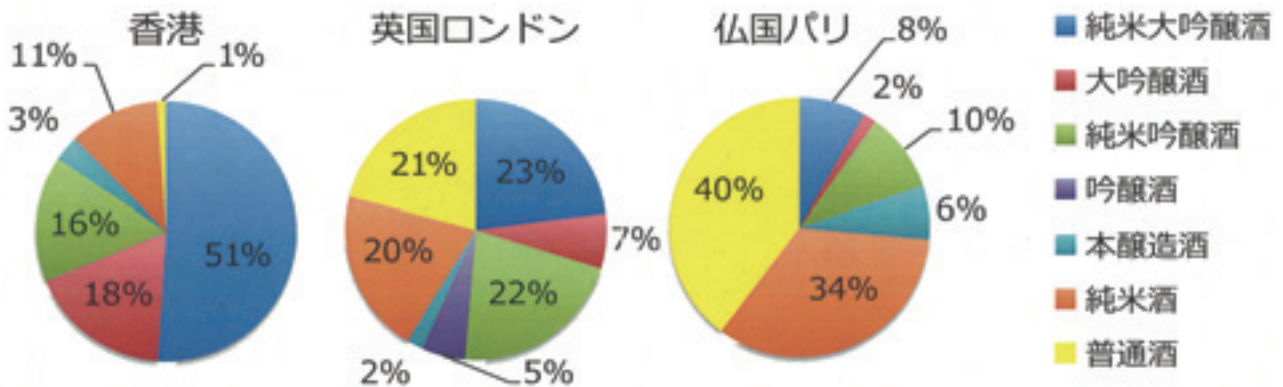


図 香港、ロンドン、パリにおける日本酒の市場調査の結果